

教師力サポーターオフィスの開設

プロジェクトの概要

先端的な教職科目体系のモデル開発プロジェクト(略称:教師力モデル開発プロジェクト)は、平成22年度から平成24年度の3年間のプロジェクトとして、国の概算要求特別教育研究経費(高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実)に採択されました。

このプロジェクトでは、教職専門科目群と教育実習科目群を再編・体系化することなどを通じて、奈良教育大学の学生に「卓越した教師力」を育成することをめざしています。そして、学生が教職の意味、役割、知識・技能、課題などを把握することを助け、より



積極的に自らの学びを組織化し、教育実践力の獲得を支援する体系的なシステムづくりを行います。

本プロジェクトは「ふかめる」「めざす」「つなぐ」「ささえる」の4つの柱のもとで取り組みを進めています。「ふかめる」では、人間として必要な「いきる」「つながる」「つくる」というキーワードを基礎として、教師として必要な資質・能力である「学校教育の課題把握」「授業力」「児童・生徒理解」「学校と地域社会との連携」「職能成長」の中身を明らかにするとともに、これらを育成する過程・方法を探ります。「めざす」では、学生がめざす教師像を明らかにするために、「教師力100冊」の選定、教職検定、教職ノートの開発に取り組みます。「つなぐ」

では、教職専門科目や教育実習科目を中心とした授業科目に、内容的・方法的な関連づけを行います。そして、「ささえる」では、教師力サポーターオフィスを拠点とし、学びの組織化をはかることをめざしています。このような取り組みの遂行を通して、先端的であり、かつ汎用性のある教員養成モデルを提案していきます。

教師力サポーターオフィスの役割

本プロジェクトの実施にあたって、学内に教師力サポーターオフィスを設置しました。平成22年4月からプレオープンし、9月1日に正式にオープンしました。オフィスには、

プロジェクトの専任教員として着任した柴本枝美准教授と、高良綾子事務補佐員の二人が常駐しています。オフィスは、月(金曜日の10時から17時まで開いています)。教師力サポーターオフィスの主な役割は次のとおりです。

- ・教職専門科目群の設計、実施、評価改善
- ・教職専門科目群についての学習支援(教職ノートの点検、評価、指導助言など)
- ・教職検定(仮称)の実施
- ・ロールプレイ教材、ケースメソッド(鍵的場面)教材の開発
- ・WEB上での学びの組織化プログラム開発
- ・附属学校園との連携
- ・地域の公立学校、教育委員会との連携

教師力サポーターオフィスでできること

さて、この教師力サポーターオフィスの主役は、いうまでもなく学生のみなさんです。一人でも多くのみなさんに活用してもらいたいと考えています。

オフィスに足を踏み入れて、まず右手に本棚が目に入ります。これは、(教師力100冊)を配架した棚です。(教師力100冊)は、教師力を高め、可視的なものにすることを目的として、本プロジェクトに関わっている大学教員や附属学校教員、オフィスを活用している学生のみなさんから推薦のあった図書を配架しているものです。学術的なものから、マンガを題材にしたものまでさまざまな本が揃っています。また、教育をテーマとしたテレビドラマや映画のDVD・VTRもあり、ここに所蔵されている図書やDVD・



准教授 柴本 枝美 (プロジェクト担当)

VTRは、閲覧、貸し出しが可能です。

そして、本棚を右手に少し入ると、テーブルと椅子が置かれたスペースがあります。この場所、学生主体の活動を行うことが可能です。これまでは、4回生が主体となつて、教員採用試験に向けての模擬授業のリフレクションや、ディスカッションの振り返りなどを行ってきました。今後は、教育実習やスクールサポーターなどのリフレクション、学生主体の学習会の場として活用していただけたらと考えています。

このほか、教師力サポーターオフィス主催の企画についても検討しています。最初の取り組みは、大学祭での企画になります。10月28日、29日は、学生が主体となり、教育実践に関わるビデオを見てディスカッションを行う企画を実施します。30日には、教師力サポーターオフィスが主催となり、「先輩教師に学ぶ」というテーマでの講演と座談会を予定しています。

以上のようなサポーターオフィスの取り組みを通して、学生のみなさんが、自然に教師という職業により強い関心を持ち、理解を深めてほしいと考えています。ぜひ一度、サポーターオフィスに足を運んでみてください。

お問い合わせ

教師力サポーターオフィス
(文棟棟 R12・107)
0742・27・9271
http://www.nara-edu.ac.jp/TCF/
kyoshiryoku@nara-edu.ac.jp

地域ぐるみで子どもを育む こどもパートナー・スクールサポーターの養成

教育を支える人材の研修・認証等の実施

教育支援人材とは、学校や公民館等で行われる教育活動を支援する人々を指します。このうち学校教育活動を支援する大学生や地域住民のことを「学校支援員」あるいは「スクールサポーター」と呼びます。文部科学省の学校支援地域本部事業に象徴されるように、近年、学校近隣の人々による学校支援はますます盛んになってきています。

ただし、大学生や地域住民がかつて子どもであった頃と比べて、現代の子どもや学校をとりまく社会的文脈は大幅に変化し、そういった変化の中で子どもや学校を理解し、支援していくことの重要性もますます指摘されるようになってきました。

こういった流れの中で、本学と東京学芸大学を中心とする六つの大学が文部科学省の補助を受けて立ち上げた「6大学連携教育支援人材育成事業」が、2008年度よりスタート

しました。大学生や地域住民が教育支援に関する研修を受け、「こどもパートナー」や「こどもサポーター」といった認証を受けられる制度を構築することで、よりよい学校支援等が行われることを目指しています。奈良教育大学では、同年度に設置された「教育支援人材連携事業運営室」が中心となつてこの事業を展開しています。

スクールサポーター研修・認証制度 ～大学生の教育ボランティア支援

大学生による地域の学校の支援も、全国で多様な形態で行われています。教職を目指す大学生にとっては、実習に入る前から学校で学んだ知識をより深い次元で理解できる経験となるだけでなく、一方で「支援者」の立場として公教育を支援し、他方で多くの学生にとつては、これまで不足しがちな傾向にあった異世代間交流(年下の子どもや年上の教職員や地域住民との交流)を経験することで、教職以前に人として成長する機会にもなるかと思えます。

運営では、このような大学生による学校支援活動が、地域の学校教育活動に寄与すると同時に、学生自身の様々な能力の成長に寄与するために、「スクールサポーター研修・認証制度」を設けています。これは、奈良教育大学の学生に限らず、他大学の学生をも対象にしています。まずは春頃に三時間程度



左から: 高橋豪仁教授、加藤久雄副学長(国際交流・地域連携担当) 林美輝准教授、片岡弘勝学長補佐(地域連携担当)



准教授 林 美輝 (教育支援人材連携事業担当)

の研修を受けることで「スクールサポーター2級」の認定を受けることができます。今年度の春に実施されたスクールサポーター研修では、合計約200人の学生が参加し、160名以上の学生が「スクールサポーター2級」の認定を受けました。そして、実際に学校等の教育活動の支援を10回以上行い、学んだことを報告書にまとめ、夏・秋に講習や中間研修を受けることで、最終的に「スクールサポーター1級」として認定されることとなります。さらに、「スクールサポーター1級」の認定者は、「6大学連携教育支援人材育成事業」の「こどもサポーター」申請の要件を満たすこととなります。

こどもパートナー養成講座・ こども通学合宿サポーター

大学生の他、地域住民による教育活動支援としては、「こどもパートナー養成講座」と「通学合宿サポーター研修」等を実施しています。こどもパートナー養成講座では、前述の6大学による共同開発のカリキュラムに基づき、子どもとの接し方、発達や障害、変わりゆく学校等に関する講義を受けることになっています。9月11日(土)に行われた同講座では、五時間にもわたる長時間の講座にもかかわらず、事前の申込みが殺到し100名近くになるなど、たいへん盛況でした。

通学合宿とは、地域の子どもの達が、地域住民のサポートの下で、公民館等に宿泊しながらいつものように学校に通う取り組みです。奈良県では、くらし創造部・協働推進課の「地域の教育力」向上事業の一環で、この取り組みに補助を行っています。本学では、奈良県・奈良県教育委員会との合同の主催により「通

学合宿サポーター研修」を行い、これらの取り組みにかかわるサポーターが必要な基本的知識等を学ぶ機会を設けています。すでに6月19日と9月11日に実施され、サポーターとなる地域住民の皆さんが学びを深める機会を提供することができました。

おわりに

以上、紹介してきたものの多くは、子どもを対象とした教育支援人材の研修に重点を置いたものです。しかしその意義はそれにとどまるものではありません。一人ひとりの子どもを大切にするために行われる教育支援人材の研修は、教育を核としながら、全ての人にとって住みよい共生社会づくりに寄与するものでもあると思います。

お問い合わせ

教育支援人材連携事業運営室
(理科2号棟 R2・303)
0742・27・9350

参加学生の声

教育学部学校教育教員養成課程
理科生活科学コース
理科教育専修 3回生
(大阪府立八尾高校出身)

中川 明宏さん



スクールサポーター研修では、様々な教育方法や子どもとの接し方、危機管理など普段の講義ではあまり聞くことがない内容を丁寧に講義してくれました。ただ講義を受けるだけでなく、教師でも子どもでもなく、支援者として教育の現場を経験することも出来ます。やはり、現場に行くと、講義とは異なる点や新たな体験が多くあります。講義で学んだ内容を生かしたり、新たに学んだりする機会が多くあります。スクールサポーター研修は非常に有意義な時間を私に与えてくれてありがとうございます。